

『英語のエキス2 通じる英語』を出版

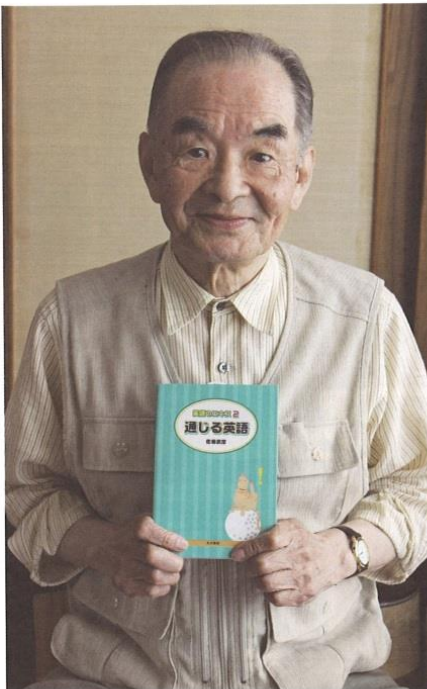
佐香武彦さん(80)

なぜ通じないのか、英語の疑問を解説

市内南町の元英語講師・佐香武彦さんがこのほど英語に関する著書『英語のエキス2 通じる英語』を右文書院から出版した。昨年発刊した同書の続編。今回のシリーズは、巷にあふれる和製英語を今一度見直し、本当の使い方や意味を知ること、発音の仕方などに改めて斬り込んでいながら通じる英語としての本にまとめたもの。

本は1章から5章で構成されている。当初この本のタイトルは「なぜ通じない」ということだった。佐香さんは長きにわたり英語検定委員をつとめていた中で、「学習者が一生懸命取り組んでいてもなぜ通じないのだろう」と、調べていくうちに「そもそも彼らが使っている語と、私たちが使っている語とは違うようだ。しかも発音もまったく違う」ということであった。

つまり、本当の外国人には通用しない言葉が沢山溢れている。彼らに誤解されないためにも、その間違いとともに「通じる英語」として本に書き残さなければと思いついたのがこの本の成り立ちである。



例えば、普段当たり前のように使っている「ナトリウム」という言葉は、実は英語では「ソーディウム(sodium)」という。第1章ではそのような問題点や「へえ～」と言いたくなる事柄を編集している。

第2章では、テレビから聞こえてくるカタカナ語について、それらの語の解説をしている。例として「ファイアストーム(firestorm)」とは、本来は戦時中の東京大空襲の際、爆弾を落として東京を火の海にしたことを指す言葉だった。現在は野外などで行う焚き火を「ファイアストーム」と言っているが、本来の意味を考えると怖いことであり、焚き火は「fire」や「bonfire」に留めたいとしている。

さらに第4章では、「和製英語」を取り上げている。20年前に集めた和製英語は約1000語だったが、現在は減っているどころかさらに2000語と増えている。

本書では日常的に使われているそれら和製英語から数百語を紹介しながら、本来の言葉や意味を解説。今ではすっかり定着した携帯電話やスマホの「マナーモード」という言葉は、外国ではどこでも通じない。これまで様々な場面で日常的に使われていたものを改めて見直している。

佐香さんは、長年の英語講師や英語検定委員・試験官としての経験から異なる文化の基盤の上に立つ英語を、日本語的発想や理解で受け止めていたことから生ずる誤解やすれ違いに疑問を持っていた。いくら懸命に英訳しても流通しているものに基づいていたのでは誤解が広まるだけだと。このため本当の英語を知る上で、長年に渡り各種英語辞典の著者や発行元、外国人教師、大使館広報部など、あるいは英語講座を扱う放送局に手紙で何度も質問のやり取りをした。イギリスやアメリカの辞典も活用して一つひとつを丹念に調べ上げてきたものが、こうした形の本となった。

「英語ばっかでない英語の本だが、とても大切な基礎的なことを学習者にそれとなく教える英語の本です。全国販売になることで広がり期待したいです」と話している。

A5判 306頁 1800円プラス税。右文書院からの発売で、紀伊国屋書店やアマゾンからも全国発売中。

mw
Community
Magazine

陸中海岸を代表するコミュニティ月刊誌

令和元年7月31日発行(毎月末日発行)通巻488号

¥510 税込

月刊 みやこわが町

MIYAKOWAGAMACHI

2019
8
No-488



特集① みやこ
天然記念物
宮古まるごと自然探訪 図鑑

特集02Field Report 一ツ石山と猿屋裏湿原 [廃虚探訪]

Photo Goki Ken

ふるさと未来の絆 方言は文化だクイズ宮古弁 石碑順禮 街角備忘録 みやこドローン散歩 他